

平成 26 年度事業報告

平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日

I. 事業の状況

1. 定期講演会の実施

定期講演会については、本年度は以下のように実施した。

- ・会場 全国 8 ヶ所
- ・開催回数 66 回
- ・来場者総計 2,645 名

- ・収入 1,526 千円
- ・支出 9,151 千円

定期講演会 8 会場の詳細は次のとおり。

- ① **東京会場** (原則として毎月第 2 及び第 4 土曜日午前 10 時より大手町ビル 513 号室)
- ・実施回数 20 回
 - ・来場者 1,626 名

(以下敬称を略します)

- 4 月 26 日 近田昭夫
入門、あやまらぬように
- 5 月 10 日 横山紘一
五重唯識観について一虚から実へ
- 5 月 24 日 乗元恵三
京極逸蔵開教使の場合
- 6 月 14 日 大童法慧
自らに在る菩薩を観る
『即心記』を参究する
- 6 月 28 日 竹村牧男
鈴木大拙を読み直す
「新編 東洋的な見方」
- 7 月 26 日 末木文美士
鈴木大拙を読み直す「日本的靈性」
- 9 月 13 日 本多静芳 まことの念仏信心
～世間を相対化する人格成長～
- 9 月 27 日 西村恵信
鈴木大拙を読み直す「無心ということ」

- 10 月 11 日 島蘭進
社会に関わっていく仏教
- 10 月 25 日 本多弘之
鈴木大拙を読み直す「英訳教行信証」
- 11 月 8 日 石上善應
共生の実践
- 11 月 22 日 重松宗育
鈴木大拙を読み直す「大拙禅を語る」
- 12 月 13 日 児玉 識
加藤辨三郎翁の仏教思想と実践
- 1 月 10 日 奈良康明
無我・非我・自我をめぐって
- 1 月 24 日 八木誠一
鈴木大拙を読み直す「禅問答と悟り」
- 2 月 14 日 杉谷義純
恵心僧都に学ぶ終活
- 2 月 28 日 山下秀智
鈴木大拙を読み直す「浄土系思想論」
- 3 月 14 日 ケネス田中
対話と争い
一宗教間の関係はどうあるべきか?
- 3 月 28 日 長谷正當
鈴木大拙を読み直す「仏教の浄土教理の発達」
- ②**大阪会場** (原則として毎月第 4 金曜日
午後 3 時より堂島アバンザ 14 階)
- ・実施回数 9 回
 - ・来場者 393 名
- 4 月 25 日 山田法胤
佛伝物語
- 5 月 23 日 休会
- 6 月 27 日 奈倉道隆
いのちの宗教・いのちのケア
一智慧と慈悲に導かれる医療と介護一
- 7 月 25 日 幹栄盛
聖徳太子と 17 条の憲法
- 9 月 26 日 池見澄隆
聞く念仏・聞かせる念仏
- 10 月 24 日 山折哲雄
いま、思うこと
- 11 月 28 日 田代俊孝
権化の仁一真実に導く人々
- 1 月 23 日 児玉暁洋
願生浄土と戦争放棄

2月27日 西山厚
愛らしい仏さま
3月27日 真城義麿
阿弥陀（無量）という世界

③ 名古屋会場（原則として毎月第3水曜日午後1時30分よりいちご丸の内ビル9階）

・実施回数 10回
・来場者 202名

4月16日 衣斐弘行
命二つの中に活たる桜哉
5月21日 加藤祐伸
信は願より生ず
6月18日 亀井鑛
聞法55年の申し送り
7月16日 田辺和子
お釈迦さまのつぶやき
—仏教聖典『ウダーナ』より—
9月17日 赤池憲昭
現代日本人の宗教意識
—外国人から見た事例—
10月15日 上沼雅龍
観音さまのスーパーパワー
『世尊偈』をよむ
11月19日 柴田悟
往生極楽の道
1月21日 松平實胤
命より大切なもの
2月18日 林淳
仏骨奉迎と日泰寺
3月18日 立川武蔵
釈尊の生涯について

④ 福岡会場（原則として毎月第4金曜日午後3時より福岡センタービル9階）

・実施回数 10回
・来場者 217名

4月25日 太田心海
自然について
5月23日 谷川理宣
愚者に成りて往生す
—いのちの立脚地の転換—

6月27日 藤谷知道
悲の時代—阿弥陀の喪失—

7月25日 村上大朗
恵信尼の夢

9月26日 藤本至誠
お育ていただいた人は強い

10月24日 菊城淳真
非僧非俗の仏道の選択
—親鸞聖人にとっての聖徳太子—

11月28日 神原玄應
念彼観音力

1月23日 平分宗賢
生ぜしもひとりなり 死するもひとりなり

2月27日 大江憲成
酌流尋源（流れを酌んで源を尋ねる）

3月27日 武内英真
聖徳太子に学ぶ平和の尊さ

⑤ 防府会場（第2水曜日午後1時30分より防府市地域協働支援センター2階）

・実施回数 5回
・来場者 41名

5月14日 橋本隆道
山頭火の仏心

7月9日 児玉識・島田教明
加藤辨三郎師の仏教的経営理念について

9月10日 岩田啓靖
誰が為に鐘は鳴る

11月12日 林寛孝
金剛力士像から学ぶことは

3月11日 河谷正也
行持報恩

⑥ 宇部会場（第2金曜日午後1時30分より宇部市文化会館ほか）

・実施回数 4回
・来場者 61名

5月9日 波佐間正己
観無量寿経

7月11日 休会

- 9月12日 市川幸佛
いのりのない宗教—浄土真宗
- 11月14日 木村延崇
仏滅後どのようにして仏像が誕生したのか
- 3月13日 有福孝岳
菩薩道と菩提心大乘仏教の根本精神

⑦札幌会場（第3金曜日午後3時より札幌パークフロントビル4階）

- ・実施回数 4回
- ・来場者 36名

- 5月16日 巖城孝憲
歎異抄の如来回向世界
- 7月18日 金石晃陽
一心に弥陀をたのむとは
- 9月19日 高畑俊孝
日本人の死生観
- 11月21日 休会

- 3月20日 木村清孝
華嚴の教えに学ぶもの

⑧仙台会場（原則として3カ月毎第2金曜日午後2時より仙台橋本ビル9階）

- ・実施回数 4回
- ・来場者 69名

- 4月11日 佐々木邦世
「ことばに 出会う」—真実・景観・人生—
- 7月11日 華園聰磨
「いのち」さまざま—生と死の意味をめぐって—
- 10月10日 丸田善明
なぜ「共に」なのか—孤立からの出発
- 1月9日 高橋哲秋
生死の中の仏

2. 各種行事の実施

各種行事については、本年度は下記の行事を実施した。

①出羽三山と山形の古刹を訪ねる旅

平成26年10月29日～31日 参加者21名

②在家仏教坐禅の会

平成26年10月9日

曹洞宗大本山總持寺。参加者30名。

3. 出版物の刊行

出版物の刊行については、本年度は以下のように実施した。

- ・収入 10,627千円
- ・支出 27,705千円

①月刊誌『在家佛教』

毎月1回発行、A5判100頁

▼平成26年5月号

- | | |
|-------|-----------------------------------|
| 渡邊寶陽 | 花祭りに思うこと |
| 吹田隆道 | 「なすべきこと」と「なしたいこと」 |
| 柴田悟 | 悪人正機について |
| 林淳 | 大乘非仏説と日本仏教 |
| 千葉望 | 書評「ご先祖さまも被災した」
被災地支える宗教者を丹念にルポ |
| 野呂昶 | 「八ヶ岳縄文詩抄」序詩 |
| 石上善應 | 一百四十五箇條問答（26） |
| 菅原伸郎 | 小説「親鸞」 |
| 奈良康明 | 暴力と平和 |
| 森和也 | 近世思想における《聖徳太子》という存在 |
| 富田富士也 | お寺に「家族」をつくり始めた不登校の娘 |
| 神田忠 | 世界各国のニュースサイト |
| 山崎真 | 不思議の国の不思議な仏塔
—ミャンマー・チャイティヨー |

▼平成26年6月号

- | | |
|-------|------------------------------|
| 森政弘 | 自在学提唱
—世界的な大問題を解決する二元性一元論 |
| 保坂俊司 | 台湾の国立病院に仏堂がある不思議 |
| 本多弘之 | 信心の智慧 |
| 西原祐治 | 物語を生きる |
| 新田智通 | 宗教と心理学—心をめぐる異なる立場 |
| 野呂昶 | 「八ヶ岳縄文詩抄」土偶 |
| 石上善應 | 一百四十五箇條問答（27） |
| 菅原伸郎 | 南無アッパ |
| 奈良康明 | 不殺生と肉食 |
| 森和也 | 儒者の仏教批判の構造（一） |
| 富田富士也 | 妻のあきらめが夫を父親にした |
| 神田忠 | 日本仏教の海外寺院 |
| 山崎真 | タンカ工房の日常—ネパール・バクタプル |

▼平成 26 年 7 月号

高史明	「仏縁」に生かされる
藤原敦	仏教の「気づき」でストレス緩和
濱田英作	熊送りと救世主
ケネス田中	仏教と心理学の協力
石飛道子	蟻塚の喩え
野呂昶	「八ヶ岳縄文詩抄」 梟面香炉土器
石上善應	一百四十五箇條問答 (28)
菅原伸郎	地藏の顕現
奈良康明	縁起と環境問題
森和也	儒者の仏教批判の構造 (二) 「おひとりさま」
富田富士也	になれそうでなれないシングルマザー
神田忠	オンラインでオフを便利に
山崎真	メコン河に浮かぶ島 ー南ラオス・デット島 (1)

▼平成 26 年 8 月号

若原道昭	「天地の化育に賛ず」
本多静芳	仏法聴聞は代理がきかない
田畑正久	仏教が教える物語
菅野日彰・ 金光寿郎	法華経の行
加藤辨三郎	アーカイブス はからいについて 「八ヶ岳縄文詩抄」
野呂昶	螭龍文深鉢
石上善應	一百四十五箇條問答 (29)
菅原伸郎	懐疑的人間
奈良康明	自他一如～人間と自然～
森和也	儒者の仏教批判の構造 (三)
富田富士也	拒否した親の仕事を身近にできた“先生”
神田忠	ヤフーが葬儀手配に参入
山崎真	メコン河を橋を渡る僧侶 ー南ラオス・デット島 (2)

▼平成 26 年 9 月号

真鍋俊照	黒巖山大日寺の両面大師画像について
朝比奈文彦	寺と劇場
吉村 均	争いをなくすために
中野東禅	にもかかわらず仏法に立つ
立川武蔵	『般若心経』の真言について
野呂昶	「八ヶ岳縄文詩抄」人神面香炉 (一)
石上善應	一百四十五箇條問答 (30)
菅原伸郎	自己の探索

奈良康明	祈りある豊かさ
森和也	近世仏教の《横》の広がり
富田富士也	地下鉄恐怖から抜け出せた“放浪”の若者
神田忠	個人情報流出／格安スマホが人気
山崎真	仏教国の人が持つ心のやさしさ ーミャンマー・バガン

▼平成 26 年 10 月号

今西順吉	世界の漱石へ
江本常照	うつ病になって本当によかった
小坂国継	豊かになって失ったもの
青山俊董	学道の心得 ーたった一度の生命の今をどう生きるかー
森江俊孝	「おもてなし」の心を学ぶ ー道元禅師の教えを中心としてー
野呂昶	「八ヶ岳縄文詩抄」 人神面香炉 (二)
石上善應	一百四十五箇條問答 (31)
菅原伸郎	寂寞の音楽
奈良康明	慈悲の「醇熟」ということ
森和也	三教一致思想を語る《場》としての近世小説
富田富士也	必要とされて素直に近づけた父と子
神田忠	自由旅行を支えるツール
山崎真	ダージリンの茶園にてーインド・ダージリン

▼平成 26 年 11 月号

石井修道	是什麼 (これなんぞ)
木村文輝	「空」の講義 オーディオ・ショップの店頭で
清水眞理	すべて相働きて「益」となる
近田昭夫	入門、あやまらぬように
田代俊孝	慈悲のかわりめー『歎異抄』再考ー
黒川文子	浄真寺の来迎会
野呂昶	「八ヶ岳縄文詩抄」蛙文深鉢
石上善應	一百四十五箇條問答 (32)
菅原伸郎	心配な教団
奈良康明	戒は仏教徒の躰け
森和也	国学と仏教・儒教との弁証法的関係 (一)
富田富士也	悩むことを“普通”に思えた子どもたち
神田忠	大型に進化した iPhone
山崎真	長城に降る雪／中国・北京

▼平成 26 年 12 月号

齋藤昭俊	殺してはならぬ
佐藤 研	寂靜への渇き
川橋範子	女性仏教者たちの挑戦
衣斐弘行	命二ツの中に活たる桜哉
乗元恵三	迷いと求道と一死と向き合った二人の文学者
鈴木大拙	アーカイブス 在家の仏教
野呂昶	「八ヶ岳縄文詩抄」火炎文深鉢
石上善應	一百四十五箇條問答 (33)
菅原伸郎	独立の視座
奈良康明	仏教と酒
森和也	国学と仏教・儒教との弁証法的関係 (二)
富田富士也	「そのまま月日が流れる」ことに感謝できた母親
神田忠	ボランティアする仏教系 NGO
山崎真	ブッダ生誕を祝うーネパール・カトマンズ

▼平成 27 年 1 月号

今井雅晴	人の師
佐々木瑞恵	いのちの本当の話をする ー東京ビハーラ「語らいの会」の活動
後藤真法	仰せを信じるということ 社会に関わっていく仏教
島 蘭 進	ー東日本大震災と仏教の力
加藤祐伸	信は願より生ず
濱田英作	宗教文化の交差点 典座との対話ー若き道元の肖像
野呂昶	「八ヶ岳縄文詩抄」釣針
石上善應	一百四十五箇條問答 (34)
菅原伸郎	一元論の謎
奈良康明	自我の自由・自我からの自由
森和也	国学と仏教・儒教との弁証法的関係 (三)
富田富士也	忙しさに救われている母親
神田忠	2014 年の新語・流行語
山崎真	遊牧民の男たちー東チベット・リタン

▼平成 27 年 2 月号

多田孝正	宿世の因縁
北川宥智	自然との共生と季節の行事
三友量順	其の人になりてみよ
竹村牧男	鈴木大拙を読み直す 「新編 東洋的な見方」
金石昆陽	一心に弥陀をたのむとは
金子大榮	アーカイブス 在家仏教
野呂昶	「八ヶ岳縄文詩抄」石鏃 (矢じり)

石上善應	一百四十五箇條問答 (35)
菅原伸郎	信仰と学問
奈良康明	自己と自我的自己
森和也	天竺からインドへ (一)
富田富士也	家族で「甘える」スキルを学べなかった親子
神田忠	インド仏跡を訪問しました
山崎真	神の地に鎮座するポタラ宮殿／チベット・ラサ

▼平成 27 年 3 月号

蕨輪秀邦	「憲法」が危ない
鎌倉幸子	東日本大震災と移動図書館
知名定寛	歳を取るということ
末木文美士	鈴木大拙を読み直す「日本的靈性」
池見澄隆	聞く念仏・聞かせる念仏
増谷文雄	アーカイブス 行雲流水
野呂昶	「八ヶ岳縄文詩抄」有孔罎付土器 (酒造)
石上善應	一百四十五箇條問答 (36)
菅原伸郎	徳目と破戒
奈良康明	暗夜に坐る釈尊
森和也	天竺からインドへ (二)
富田富士也	「ささい」なことを大切にできた夫婦
神田忠	個人手配でインド仏跡訪問
山崎真	旧暦元旦の記憶ーベトナム・ホイアン

▼平成 27 年 4 月号

坂輪宣敬	古き良き日本人と仏教
有国智光	「生きていますか」
小山聡子	囲碁と双六の不思議なハナシ
西村恵信	鈴木大拙を読み直す「無心ということ」
菊城淳真	非僧非俗の仏道の選択 ー親鸞聖人にとっての聖徳太子ー
濱田英作	どんどやきからパレスチナまで
野呂昶	「八ヶ岳縄文詩抄」獣面深鉢 (一)
石上善應	一百四十五箇條問答 (37)
菅原伸郎	二つの自由
奈良康明	釈尊「六年苦行」の誤解を解く
森和也	研究対象としての《仏教》
富田富士也	自分らしさで孤立した少年
神田忠	仏教を実践しよう・学ぼう
山崎真	南インドの笑顔ーケララ州アレッピー

②協会創立 60 周年記念書籍

「講演集・悲喜をよろこぶ」

「対談集・掌を合わせて生きる」

4. その他目的を達するために必要な事業

① 国公立図書館並びに大学図書館及び刑務所

「在家佛教」誌を毎月寄贈

② ホームページ改善

会員サイトの新設

③ ネットでの講演会動画配信

会員へのサービス向上

新規会員の獲得

④ 転載報告

株式会社方丈堂出版

転載先：親鸞の真宗か 蓮如の真宗か

転載文：浄土に往生すること

「在家佛教」2008年4月号

どうしたら阿弥陀仏に出遇えるか

「在家佛教」2009年8月号

仏を信じたら人間変わるか

「在家佛教」2023年12月号

著者：信楽峻麿

図書出版海鳥社

転載先：追悼 遺稿集 色定法師と源平の争乱

転載文：色定法師と平清盛

「在家佛教」2012年11月号

著者：田村圓澄